

電子リソースの不適切な利用について

電子リソースは大変便利かつ有益であり、それだけに無自覚に過度な利用をしかねず、メリットと隣り合わせの危険が潜んでいるともいえます。たとえば、ダウンロードが技術的に可能であっても、著作権法や利用条件上、すべてのものが無制限に認められるとは限らないことは理解しておくべきです。著作権法をはじめ電子リソースの各提供元が定める利用条件（利用規約やTerms and Conditions、Terms of Use等）は遵守しなければなりません。また、悪意は無くとも意図せず大量ダウンロードや不適切な利用と見なされるケースが近年増えてきていますので、留意してください。

1) 著作権法の基本的理解

著作権法第31条においては図書館の複写可能範囲は「著作物の一部分」と規定されており、この「一部分」を一般的には「半分まで」と解され、運用されています。紙媒体のみならず電子媒体においても一般に同様の「著作物」として取り扱われることから、同じ解釈に基づき、電子リソースの利用におけるダウンロードなどが複写相当として制約されます。どのような著作物も著作権があり、著作権法で権利が保護されています。提供されているものを自分の好き勝手に利用してよいわけではないことをしっかりと認識してください。

以上に照らして、次の行為は禁止されています。

- ・雑誌1号分または図書1冊分すべて、あるいは半分を超える部分をダウンロードまたはサーバにアップすること（ただし、雑誌に掲載された論文等の1つの著作物だけで1号の半分を超える場合には、その著作物の全部のダウンロードは可能）
- ・誰もがアクセスできるサイト上で著作物を共有すること
- ・授業で必要とする部分を超える資料を共有すること
- ・通常は各自が購入すべき著作物（問題集等）を購入の代替となる形で共有すること

詳細は「改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版）」をご確認ください。

https://forum.sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin_20201221.pdf

2) 電子リソースの各提供元が定める利用条件

著作権法とは別に、電子リソースの各提供元は利用条件（利用規約やTerms and Conditions、Terms of Use等）を定めています。本学で契約している電子リソースを利用する場合は、その利用条件が著作権法に優先されますので、利用条件の範囲内で利用してください。利用条件は、それぞれの提供元の各サイトにて確認できます。

以下に、不適切利用と解される代表的な行為を記します。

・大量ダウンロード

- 各提供元では自動的・機械的なアクセスを系統的に監視しており、疑わしい行為が検知されると、本学からのアクセスが停止される場合があります。プログラム等による機械的な大量ダウンロードが禁止であるのはもちろんのこと、ダウンロード支援ソフト、ロボット、クローラー等は使用しないでください。
- PC等にファイルを取り込む行為だけでなく、PDFなどを開いて画面に表示するだけでダウンロードと見なされる場合があります。また、多数のPDFを短時間に連続して開いただけでも大量ダウンロードと見なされることがあります。さらに、一つのリンクを連続してクリックすると、データを保存する/しないにかかわらず、大量ダウンロードと見なされることがあります。手動であっても一定時間内に提供元側で想定した量以上のダウンロードをすることは禁止されていますので、連続して利用する場合の回数にも注意が必要となります。

・特定資料の系統的または網羅的なダウンロード

- 特定の電子ジャーナル1年分すべての論文を続けてダウンロードするなど、系統的・網羅的なダウンロードは認められていません。あとで読むつもりで要/不要にかかわらずまとめてダウンロードする行為が不適切と見なされないよう、差し当たり必要と思われる部分のみをダウンロードするよう心掛けてください。

では、何をもって「大量」「系統的・網羅的」と見なされるかについて、何時間のうちに何件までなら問題ないという明確な定義はなく、提供元によって「大量」「系統的・網羅的」の範囲が異なります。電子リソースを利用する際は、提供元の利用条件を必ず確認し、適切に利用することが重要です。

なお、意図せずして「大量」「系統的・網羅的」ダウンロードと見なされるケースが増えています。その代表的な例を以下に挙げますので、注意してください。

a. ブラウザの先読み機能による大量ダウンロード

各ブラウザにはリンク先読み機能があり、この設定をオンにしていると、バックグラウンドでページ内のリンクへのアクセスが繰り返されるため、利用者が意識しないうちに大量ダウンロードを行うことがあります。当該機能をオフにすることで、発生を未然に防ぐことができます。

- b. ブラウザの拡張機能（一括ダウンロード機能 [DownThemAll]）による大量ダウンロード
一括ダウンロード機能で大量のファイルをまとめてダウンロードをすることにより、大量ダウンロードと見なされる場合があります。当該機能は使用しないでください。
- c. 文献管理ツールによる大量ダウンロード
文献管理ツールのフルテキストダウンロード機能の使用により、機械的な大量ダウンロードと見なされる場合があります。当該機能を使用する際は文献数に注意してください。

ブラウザの先読み機能の解除方法（ブラウザのバージョンによって設定方法が異なる場合があります）

▶Microsoft Edge

右上の[...] -- [設定] -- [Cookieとサイトのアクセス許可]を開き、「Cookieとサイトデータの管理と削除」中の「ページをプリロードして閲覧と検索を高速化する」をオフにする。

▶Google Chrome

右上[設定] -- [プライバシーとセキュリティ]を開き、「Cookieと他のサイトデータ」中の「ページをプリロードして、閲覧と検索をすばやく行えるようにする」をオフにする。

▶Google Chrome（Android）

右上[設定] -- [プライバシーとセキュリティ]を開き、「ページをプリロードする」から「プリロードなし」を選択する。

▶Mozilla Firefox

URL欄に「about:config」と入力してコンフィグ画面を開き、「注意して進んでください！」という警告ページが表示されるので、「危険性を承知の上で使用する」をクリックし、about:configページを開く。検索欄に「network.prefetch-next」と入力し、検索。値が「true」の場合は、先読み機能が有効になっているので、行をダブルクリックして「false」に変更。（「false」になっている場合、先読み機能はすでに無効）

▶Safari（Mac）

メニューバーの[Safari] -- [環境設定]をクリック。[検索]タブをクリックし、「バックグラウンドでトップヒットを事前に読み込む」のチェックを外す。

▶Safari（iOS）

[設定] -- [Safari]を開き、[検索]中の「トップヒットを事前に読み込む」をオフにする。

3) 不適切な利用と見なされた事例（他大学の事例を含む）

事例1)

- ・提供元から「不適切な利用を検知したため、学内のIPアドレスからのアクセスを一時的にブロックする」旨を通知する自動メールを図書館で受信。
- ・提供元に対して具体的な「不適切な利用」状況を問い合わせたところ、「特定のページに対して1分間に100回以上のアクセス試行」されたとのこと。
- ・提供元でのブロックは1時間で解除されたことを確認。
- ・提供元から提示されたほどはアクセス試行していなかったものの、短時間の一定以上のアクセスが、不適切な大量ダウンロードと見なされた。

事例2)

- ・提供元から、自動メールを受信。
- ・学内の特定IPアドレスから、機械的ダウンロードが検出されたため、そのPCからの電子ジャーナルの利用を一時的に停止された。
- ・具体的には、数秒間に最大で10件程度、論文を機械的にダウンロードした形跡があった。
- ・該当IPアドレスの研究室に説明し、ダウンロードしたPDFを全部消去、嚴重注意。

事例3)

- ・提供元から、自動メールを受信。
- ・学内の特定IPアドレスから、一定時間内に提供元の定める制限以上のPDFの利用があったため、そのPCからの電子ジャーナルの利用が一時的に停止された。
- ・具体的には、雑誌1タイトルについて、約1時間に約160件のPDFダウンロードがあった。
- ・利用者本人にはダウンロードしたPDFを全部消去してもらい、嚴重注意。

事例4)

- ・研究室で、特定の電子ジャーナルの2号分をダウンロードしたため、アクセス不可となる。
- ・警告メッセージは表示されていたと思われるが、図書館への問い合わせがないまま数日が経過した後、「〇〇日以内に事象の報告をしなければ全学のアクセスを停止する」との警告メールを図書館にて受信。
- ・期限内に報告したが、提供元の事情で復旧までに4週間以上を要した。

事例5)

- ・研究室で、電子ジャーナルにアクセスし、本文のHTMLを連続表示させ閲覧していたところ、1時間以上経過後にアクセス不可となった。
- ・図書館で事実確認した際には、すでに他の研究室からもアクセス不可となっていた。
- ・提供元への事情説明に努めたものの、アクセス再開には2週間を要した。

事例6)

- ・研究室で、ブラウザのタブ保存機能を有効にしていたところ、アクセス不可となった。
- ・保存されていた電子ジャーナルのPDFが起動時に自動的に開いたことが原因。
- ・短時間に何度も再起動したり、多数のタブを開いた状態で保存したりしていると、不適切な過度のアクセスと見なされることがある。

以上